

# 川口の教育



【 戸塚北小学校 東京演劇集団「風」による「星の王子さま」公演 】

## 第668号

### 【目次】

年頭のあいさつ	川口市教育委員会教育長	井上 清之	・・・(2)
教育随想① 「夢は枯野をかけ廻る」	川口市立飯仲小学校長	小澤 英敏	・・・(3)
教育随想② 「自分から先にあいさつ」	川口市立飯塚小学校長	江川 雅敏	・・・(3)
指導の手引	埼玉県学力・学習状況調査の分析とC B T調査の課題 ～C B T調査においても身に付けてきた学力を適切に発揮するために～	川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 櫻田 貴昭	・・・(4)

1 月号  
—令和7年—

編集・発行 川口市教育委員会

## 年頭のあいさつ

川口市教育委員会教育長 井上 清之



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和7年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は各学校・園において、「一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさをそなえた人材を育てる川口の教育」の推進に多大なるご尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

振り返りますと、昨年はコロナ禍以前とは人々の生活や意識が変わり、社会全体が大きく変容していく中、各学校・園におかれましても、気持ちを新たに教育活動のより一層の推進を図っていただいたことと思います。新しい視点でこれからの学校教育の在り方を考え、試行錯誤しながら学校教育を推進し、力強くリードしてこられました校長先生、園長先生方をはじめ、教職員の皆様に深く御礼申し上げます。

さて、そのような中、鳩ヶ谷中学校の安全功労者内閣総理大臣表彰、並木小学校と岸川中学校の学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰、並木小学校の全国学校体育研究文部科学大臣表彰、全国中学校体育大会における上青木中学校のソフトテニス男子団体準優勝、西中学校の柔道女子個人優勝の他、中学校12校の全国大会への出場など、県・全国に川口の名を広めて頂いた数々のうれしい報告がございました。これはまさに、日頃の熱心な取組が実を結び、大きく花開いた結果と捉えています。これらの成果はもちろん、学校・園において得られる豊かな学びや体験

は、子どもたちにとって健やかな成長につながるものであります。引き続き、これからの時代を切り拓く子どもたちのために、更なる川口の教育の充実をお願いいたします。

さて、川口市教育委員会は「信頼される、愛される教育委員会」を目指し、引き続き学校と共に教育施策を推進してまいります。かねてより重要施策として取り組んでいる「学力向上」「不登校対策」「部活動改革」を更に前進させていきます。学力の向上としては「子どもたちと教師が実感できる学力向上」を目指し、全国、県の学習状況調査の結果を踏まえた、本市の課題解決を先生方と共に進めてまいります。不登校対策としては「学びの保障に向けた支援率100%」へ向け、令和8年度には「学びの多様化学校」の開校と「校内教育支援センター（ほっとルーム）」の全校設置を目指してまいります。そして、部活動改革として「地域クラブ活動の推進」に取り組んでまいります。具体的には、「川口市部活動地域移行推進協議会」においてまとめられた、令和9年9月を目途に休日部活動を地域へ移行する方向性を受け、現在、実施しているモデル事業の成果と課題をもとに地域クラブ活動への円滑な移行に向けて、準備を進めて参ります。

結びに、各学校・園におかれましては、誰一人取り残すことなく、子どもたち一人ひとりが輝く教育活動の実現に向け、「チーム川口 個人戦から団体戦へ」を合言葉に、更に学校間の連携及び市教委との連携を強固にすることをお願いし、年頭のあいさつといたします。

## <教育随想①>

### 「夢は枯野をかけ廻る」

川口市立飯仲小学校長 小澤 英敏



「新しい元号は平成であります。」職員室の後方に置かれたブラウン管テレビが当時の官房長官であった小淵恵三氏の会見を中継していました。これは私が教職に就いて2年目のことだったでしょうか。

当時はまだバブルの末期で、同期の友人は「臨時ボーナスが100万出たぞ！」などとホクホク顔をおった時期でした。ちなみに私が初めて手にした給料袋には11万円入っていました。「そのうち平成生まれの子の書類書くのかしら？」と高校入試の調査書（当時はA3判手書き）を書きながら言っていた先生がいました。すでに令和です。

職員室の2台配備されたワープロは箱型の東芝ルポ、パソコンなんて夢のまた夢で、おおかたの先生方は自腹でワープロを購入して仕事をしていました。そういえば職員室も喫煙可で、いつも煙っていましたね。当時の教頭もチェーンスモーカーで、灰皿はいつも山になっていて、初任の私は常にそれを片付けることを命じられておりました。令和の時代にそのような仕事が残ってなくて本当に良かったです。

思えば、ミスター長嶋茂雄、一本足打法の王貞治の活躍を見ました。「普通の女の子に戻りたい」と一線を退いたキャンディーズを、マイクをそっと置く山口百恵を、千代の富士を、鉄人衣笠を、燃える闘魂アントニオ猪木を、ウエスタンリアットを世に知らしめたスタンハンセンを、トルネードの野茂英雄や振り子打法のイチローを、たけちゃんマンの「オレたちひょうきん族」を、テレホンショッキングの「笑っていいとも」を、全部リアルタイムで見してきました。私にとってのスターは、New Jeansでも、Snow Manでもなく、松田聖子やたのきんなんです。（演出上敬称略します）

息子にしばしば呆れられますが、記憶もやり方ももうアップデートされません。ですから今更 Snow Manの顔と名前を一致させようなんて夢にも思いませんし、すでに今のアイドルの顔は全部同じに見え始めています。オワコンの自覚満々です。だから「老兵はただ消え去るのみ」の言葉がしっくり身に沁みてきています。

最後にただ一つ申し上げたいことと言えば、こんな私を先生たらしめたのはそう呼んでくれた生徒たちであり、こんな私を校長たらしめたのはそう呼んでくれた先生方です。本当に本当にありがとうございます。私は自信をもって、いい先生でも、いい校長でもありませんでした。だからせめて、皆さんの未来が、学びやすく、働きやすく、生きやすくありますことを心から願いながら、筆を置きたいと思います。

God bless you！ 皆様に末永く幸あれ。

## <教育随想②>

### 「自分から先にあいさつ」

川口市立飯塚小学校長 江川 雅敏



児童生徒1人1台のタブレットの導入などによる、教育環境の目まぐるしい変化の中、飯塚小学校で 校長職を5年間勤めさせていただいたことに、感謝申し上げます。

私の教員生活は、三郷市から始まりました。大学を卒業して、学級担任・数学・陸上部を受け持ちました。先輩の先生からは、「生徒に負けない勢いが大切だ。逃げるな！」との助言をいただきました。

その学校は、部活動が盛んな体育会系の学校でした。毎朝、7時30分から8時10分まで校庭で朝練習の指導。その後、校門であいさつ運動を8時25分まで実施。8時30分から学級で朝の会を実施。私がこだわったのは、「生徒に負けないあいさつ」でした。授業開始や終了時のあいさつ・職員室に入るときあいさつ・職員室に入ってきた人（教員・保護者・業者）へのあいさつを徹底。授業も部活動の指導も、まだまだ未熟。学級懇談会では、保護者から指導力の不足を指摘されたこともありました。

一方で、他の保護者からは、「元気だね。明るいね。期待しているよ。」という肯定的なお言葉をいただきました。初任者から7年間お世話になった学校を去り、同じ市内の学校で9年間、八潮市に異動してからも10年間、数学・陸上部を受け持ち、「生徒に負けないあいさつ」を実践しました。

数学で「はつらつ先生」「埼玉県委嘱の数学発表」陸上で「埼玉県大会男子総合優勝」の機会に恵まれました。指導主事や教頭になっても、「自分から元気なあいさつ」を実践しました。自分の子どもからは、パパの話す声やあいさつの声は「でかい。うるさい！」と、注意されることもしばしばあり、反省。妻からは、相手の状況を見て、声を小さくしてあいさつすることも「相手へのやさしさだよ」と言われ、反省。

ICTの導入により、社会全体が便利になった反面、人間関係の希薄化やICTを悪用した犯罪の増加を懸念する今日この頃。校長の役職定年を令和7年3月31日に控えた私は、残された日々を、飯塚小学校でのあいさつ運動で締めくくる。早朝、校門前で掃き掃除をしている校務員さんへ、職員室に入ってきた調理員さんへ、朝の旗振り当番（保護者）の方へ、登校してきた児童・付き添いの保護者へ、通勤中の方・散歩中の方・西中へ通学する生徒へ、感謝の気持ちを込めて、「相手の状況を見て、自分から先にあいさつ」をする。

これからの人生も、教育の不易は、「あいさつ」だと信じ、貫いていく。

1 はじめに

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査（以下県学調）は、GIGAスクール端末（以下端末）を使用した全面CBT（Computer Based Testing）調査となった。これにより、児童生徒の学力や学習に関する事項をより詳細に把握できるようになり、よりきめ細かな指導が可能になると考えられている。

児童生徒一人ひとりの学力を確実に伸ばすために、本稿では、CBT化された調査を正確に分析・活用していくための取組等について述べる。

2 CBT化された県学調結果について

埼玉県教育委員会が公表した令和6年度県学調結果によると、県全体の傾向として、多くの学年や教科で学力の伸びが見られた。一方で、学力の伸びが小さい、または横ばいの教科や学年も見られた。この要因として、埼玉県教育委員会教育長は「児童生徒が端末の使い方に不慣れだった可能性がある」と述べている。調査がCBT化されたことにより、児童生徒が回答しづらさを感じたことで、身に付けてきた学力を適切に発揮できなかったことが考えられる。

本市の結果においても同様の傾向が見られたことから、これまでの紙と鉛筆を用いたPBT調査（Paper Based Testing）との違いに戸惑った児童生徒が多かったことが予想される。

3 本市における県学調の分析について

今年度の本市の各教科における分析を端的に示すと以下のとおりである。

- (1) 国語
 

言葉の特徴や使い方については身に付いているため、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる授業改善を行う。
- (2) 算数・数学
 

基礎的な計算は身に付いているため、基礎学力を定着させつつ、既習事項を活用できるような授業改善を行う。
- (3) 英語
 

聞く力が確実に身に付いているため、短文読解問題と言語活動を通したライティング活動に取り組む授業改善を行う。

4 本市における学力向上の取組

CBT調査における端末操作の不慣れは、正確な学力の実態把握が困難になることにつながり、学力について適切な分析を行えなくなる恐れがある。そこで今後は、3で述べた分析により明らかになった課題について授業改善を行うとともに、児童生徒が端末操作に慣れるよう、経験を積ませていく必要がある。川口市教育委員会では、学習の定着と基本的な端末操作の習得を一体的に図ることができるよう、以下のような取組を行っている。

(1) 市内に広めたい指導者へのインタビュー

県学調において児童生徒の学力を大きく伸ばした教師へインタビューを行い、教職員研修等で学校と共有した。学力向上の基盤はよい学級経営である。そこに授業改善の視点が加わることで学力をさらに伸ばすことができる。

Q. 授業で大切にしている約束事とはどんなことですか？



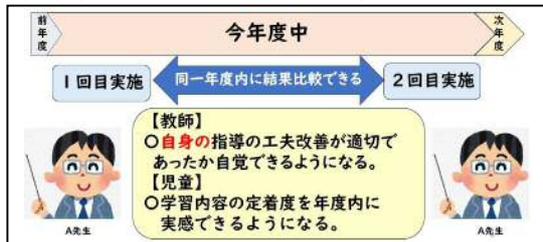
(2) 「復習シート」のドリルパークへの掲載

埼玉県教育委員会は、本調査で使用した問題や類似問題をもとに、学習の定着のための「復習シート」を作成している。これまで県HPにPDF版が掲載されていたが、川口市独自に端末上で実施できるようドリルパークにも掲載した。端末上に示された問題を解く際は、図形や計算式を一度手元の計算用紙に書いて考えること等にも慣れさせる必要がある。



(3) 川口SネクストのCBTによる取組

今年度、新たな取組として試行した川口Sネクストは、小学校において数学的な見方・考え方を働かせて解く問題を中心にCBTで出題した。年に2回実施することで、同一年度内に結果を比較することができる。児童は学習内容の定着度を実感できるようになり、教師は自身の指導の工夫改善が適切であったかを自覚できるようになる。



5 おわりに

国や県の学力調査等の結果から、ここ10年間で本市における児童生徒の学力は確実に向上してきている。これは、これまで、本市の教員一人ひとりが児童生徒の成長やつまづきを把握した上で、適切な指導・支援をしてきたからである。

今後は、学習の定着と基本的な端末操作に慣れることに一体的に取り組むことで、県学調の正確な実態把握と分析・活用を一層進め、さらなる指導の改善につなげていきたい。そしてCBT調査においても、児童生徒一人ひとりが学力の伸びを実感し、自信を深めることができるよう、先生方にはこれまで同様にきめ細かな指導をお願いしたい。